

この街が好きだから

武蔵野 スケッチ 物語 100

ダイヤ街にて

絵と文 大須賀一雄

見慣れた風景も、
絵になるとちよっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが
春夏秋冬で切り取って描きます。

←次ページでは、大須賀さんの100回記念インタビューを掲載しています！



担当の方々から今回で100回と聞いた。季刊なので25年目ということになる。ずいぶん長い間やらせていただいている。

このコーナーを始めたきっかけは、当時の土屋正忠市長からのお声掛けである。JR中央線の高架化が進む中で、武蔵野市内にある吉祥寺、三鷹、武蔵境の3つの駅を季刊誌に載せるということでお話をいただいた。3駅の次は、武蔵野市以西の駅舎も描き、その後、好評をいただいたので、武蔵野市内の風景を描くこととなった。

今でもチャンスをくださった土屋さんには感謝している。歴代の担当の方々、きれいに絵の色を印刷してくださる印刷会社の方々にもお世話になった。そして何より、私の絵を見て励まし続けてくださった読者の皆さんに、お礼を言いたい。「大須賀さんの絵が楽しみで季刊誌をストックして眺めています」と言ってくれださった方もいる。

これからも筆の持てる限り、描かせていただきたいと思う。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。